

朝霧

3月号

【発行】平成30年3月13日
御嵩町教育センター
可児郡御嵩町御嵩1239-1

TEL (0574) 67-2111 FAX (0574) 67-1902

E-mail m-kngnkk@town.mitake.lg.jp

ホームページ <http://www.town.mitake.gifu.jp/kyouiku/senta/senta-top.html>



夢は欠席者ゼロ

可児郡教頭会長 長谷川 清考
御嵩小学校教頭

年度の終わりにはどの学校もその一年を振り返り、教育活動の評価を様々な評価項目から行われたことと思う。改めて考える時、ひとつの学校を評価するには、何を指標に見るとよいのだろうか。

時代の流れからすれば全国学力学習状況調査が有力かもしれない。全国体力テストもそのひとつ。中学校であれば部活動の成績などもあてはまるかもしれない。

では、その学校の明るさ、元気さ、健全さといった健康度的な指標としては、何があるか。いじめや不登校の件数などは全国統計がとられており、マスコミもよく取り上げている。まだメジャーにはなりきれていないが、歯のDMF歯数<過去にむし歯になったことがあるかどうかを数値で表したもの>も全国統計で公表されている。他に、校内的な視点として、欠席日数や給食の残菜量もそのバロメーターとなる。

そんな中で私は、自校の欠席者数にこだわってみた。御嵩小学校では、欠席者がゼロであった日は、残念ながら本年度一度もない。

欠席者がゼロにならない理由としてすぐに思いつくのは、不登校だろうが、実は数値的にはそうではない。不登校児童は毎年何人かはいる。その子たちは、適応支援教室(オアシス教室)登校で努力していたり、学校の組織が一丸となってその家庭の支援を行ったりしている。その中で、オアシス登校は出席扱いとしているため、不登校=欠席とはならない。実際、欠席理由の多くは、怪我や病気である。

今年度の欠席状況を見ると分かるが、緊張の

4月は欠席者数が一番少なかった。欠席者が3人というのが、4月から6月に数回あるが、それ以降は、じわじわと右上がりの傾向となっていく。

行事など楽しみな何かがある日は欠席者が少ない。欠席者数2人というのが今年度の最少記録である。それは6月15日(木)の修学旅行1日目であった。6年生は修学旅行、5年生は不在の6年生の分団長代理として、休むわけにはいかなかったからだろう。

学校に居場所が見つけられない子は、怪我や病気でなくても登校を渋り、休んでしまうようになるのだと推察する。

今年度、御嵩小学校では「認める(価値づける)」を最重要方針として教育活動を進めてきた。すべての子どもたちに、自己有用感を持たせたいためであり、学校を楽しく安心して過ごせる居場所とするためである。

本校職員は元気で健康的だ。職員の欠席ゼロの日は、ほぼ毎日である。よく食べよく笑いよく遊ぶ。そしてよく働く。この仕事に誇りを持ち、ふるさとに愛着を感じながら、子ども達と厳しく、そして優しく向き合っている。今年はそんな職員の力や思いもまだ十分届かず、欠席者ゼロの日をつくり出すことはできなかった。しかし、この職員ならば、次年度こそ欠席者ゼロ、という日を達成できると実感した。これからも職員一同粘り強く粛々と教育活動を続けていく。



平成29年度
御嵩町教育センター

教育実践論文



▲社会教育部門
田んぼの学校



▲高木教育長より
表彰状の授与



▲受賞者代表の言葉
後小路運営支援室室長

入賞者（敬称略）

◆社会教育部門◆◆ 【特別賞】

田んぼの学校	御嵩公民館	田んぼの学校 アイガモのちからを借りて アイガモと一緒に 環境にやさしい お米作りに挑戦 ～平成17年（第4回）～平成29年（第16回）の歩み～
--------	-------	--

◆教職員部門◆◆ 【優秀賞】

御嵩町学校運営支援室 後小路公人他5名	御嵩町学校 運営支援室	学校事務：学校の組織力を支える学校事務共同実施組織 ～御嵩町学校運営支援室による教員の多忙化解消への取り組み～
山田 康弘	伏見小	社会科：「社会的事象の意味を問い続け 自らの生き方をつくり出す子」が育つ社会科学習
可児 芳恵	上之郷中	英語科：主体的に学び、学習意欲と表現力を高める授業改善 ～生きた言葉で英語表現できる子をめざして～
太田 晴花	上之郷中	学校事務：学校の運営を支えるために

【優良賞】

名倉さおり	伏見小	総合的な学習：環境モデル都市に生きる子ども達 ～自分の町の環境について考え、地球を守ろうとする子を育む木育の活動～
安達 和秀	向陽中	保健体育科：「運動が好き」と感じられる体育の授業づくり ～ICTの活用により仲間と深く学び合う授業を通して～
大本 直人	共和中	社会科：主体的に課題解決に取り組むための授業改善 ～既習事項を生かし、主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

【奨励賞】

河瀬 桜	上之郷小	健康安全：児童から児童へとつながる歯と口の健康づくりを目指して ～7人の保健委員を中心とした歯科保健活動の充実を通して～
山本 清美	御嵩小	特別支援教育：M児とともに～絵日記・作文の変容より～
金子 慎一	御嵩小	特別支援教育：発達支援通級指導教室における「ペア学習」の在り方
村瀬 美保	御嵩小	特別活動：学級担任とともに創る“聴き手に感動を与える”学年合唱 ～学年・学級経営を基盤として音楽担当教師としての指導のあり方～
大井 陽子	御嵩小	理科：児童の科学的な見方や考え方を育て、「できた」「わかった」と学べる 授業等の工夫 ～御嵩小での理科学習を振り返って～
石橋 弘匡	伏見小	算数科：「できた！わかった！」と学びを実感できる子の育成 ～基礎学力を付ける算数授業の在り方～
栗林 梢	伏見小	算数科：「できた」「わかった」と感じることが出来る授業づくり ～ペア交流と終末の学習活動から～
大城 真一	向陽中	学級経営：認め合い励まし合える学級づくり ～よりよい関わり方を考え、よさを認め合う活動を通して～
中山雄一郎	向陽中	数学科：学級全体に知識・技能の定着を図る関数の指導の工夫 ～個別に支援が必要な生徒の対応を通して～
細井 一平	共和中	特別活動：生徒が主体的に動く生徒会活動を目指して



平成29年度の 教育実践論文を読み終えて

教育実践論文審査員長
上之郷中学校長

稲垣 隆幸

本年度も初任者からベテランの先生、社会教育まで幅広く、計18点の応募がありました。それらの審査から感じたことを3点述べます。

第一に「論文を作成するにあたって」です。論文作成にあたっては、はじめに「研究」と「実践」の違いを理解しておくといえます。研究論文では、まず、主題に基づく研究仮説を設定して取り組み、そこから明らかになった結果を基に相関関係や因果関係を読み解き、あらたな問題点の提起や方法の提案を整理してまとめることによって研究の成果を明らかにしていきます。一方、実践論文では、実践に当たるための主題や仮説をもち、それに沿った実践を行った結果、効果としてどのようなことが得られたのか、何が問題点として提起されるか、などを結論として明らかにしていきます。実践したことの報告に終始することのないように違いを理解して取り組み、その中から教育的な課題や事実を見つけ出し、提示していくねらいをもって取り組むことが大切です。

第二に「主題と研究実践の必然性」についてです。主題は、具体的な取組や検証・評価をするためにも焦点化された具体的なものでありたいです。焦点化された端的な主題を導き出す過程で、取組の骨子が見えてくるはずですが。論文の主題としては、4つのことが大切だと思います。はじめに、今までに行われていることにとどまらず、新しい開発や創造性、すでに知られている事柄から導き出された新しい事実や解釈などのオリジナリティがあること。2つ目に、主題には、教育を取り巻く現在の課題や現任校の課題など、現実的な必然性があること。3つ目に、主題の具現に向けて必要十分な実践と記録が提供されていること。4つ目に、誰もがやってみたくするような視点や方法に工夫があることです。研究や実践が総花的で焦点がぼやけたものに

なることを防ぐためにも「論は単純に、実践は豊かに」を心がけるとよいです。そして、その内容に必然性をもたせることが必要だと感じました。いきなり、自身の主題や実践ではなく、現在の社会や学校に係る実態や課題、文部科学省、県や市町村教育委員会が示す指針、各部会の主題、現任校の状況などを整理して関連させることで、取組に必然性や整合性が生まれます。日々行っている自身の取組を改めてこれらとの関連から整理してみることもとても有効です。

第三に「研究実践の内容・評価」についてです。取り組む内容については、主題をよりどころにして、どのような視点から組み立てていくのかを精選し、研究実践については、具体的なことがらでその検証や評価ができることが大切です。たとえば、「がんばらせた・がんばっていた」では、何がどうであったかわかりません。「何をどのくらいにしたいのか・どんな手立てが講じられ、その結果として、児童生徒のどの姿や事実からどのような伸びや改善が図られたのか」を数値や変容で示すことで、より説得力のあるものに変わります。いずれにおいても「自分自身のとらえ方と解釈・結論」の主張が必要です。

また、わかりやすい言葉で表すとよいです。資料を読み、情報を集め出すと、難しい言葉や抽象的な表現、今時の英語表記など、その内容が不明瞭なものが多くあることに気づきます。自校の実態を踏まえて、わかりやすい言葉に置き換えていくことが大切です。そうすることで、目指すものや成果がより具体的なものになっていきます。

今回、入賞された論文の多くは、研究実践の内容や評価がとても具体的でわかりやすくまとめられていました。学校種を越えて大変参考になるものです。是非多くの先生に目を通していただけるとよいと思います。



★優秀論文の中から、1点の論文の概要を紹介します。御嵩町の事務職員のみなさんが、どんな思いで、どんな内容に取り組んでくださっているのかよくわかります。詳しくは、3月中に発行する優秀論文集をご覧ください。

〈学校事務〉 学校の組織力を支える学校事務共同実施組織
～御嵩町学校運営支援室による教員の多忙化解消への取組～

御嵩町学校運営支援室 室長 後小路公人 他5名

1. 主題設定の理由

御嵩町教育委員会は、平成24年度に「御嵩町学校事務職員の共同実施要綱」を定め、御嵩町学校運営支援室を新たな教育行政組織としてスタートさせた。「事務をつかさどる」「共同学校事務室」という平成29年度に改正された学校事務職員に関する法律の考え方を先行しているものである。何より子ども達の豊かな育ちを支援するため、学校運営支援室をただの事務処理協力体制に留めず、各学校で運営の支援ができる仕組みにしたいと考えた。学校事務職員が共同実施を通して、学校全体の事務機能だけでなく、組織力を支えることで、学校がより円滑に回っていくこと、すなわち教員の多忙化解消へつながると考え、主題を設定した。

2. 研究仮説

- (1)学校運営支援室で、同じビジョンを基にチームで解決する意識を育む組織開発と研修を行うことで、学校の教育目標を具現する組織の一員として貢献する人材の育成を図ることができる。
- (2)学校事務機能評価を活用したPDCAサイクルを確立することで、学校全体の事務機能を向上させるとともに、教員の事務負担軽減による多忙化解消へとつなげることができる。

3. 研究内容

- (1)人材を育成する組織開発
- (2)学校事務処理機能評価を使ったPDCAサイクルの確立
- (3)多忙化解消へ向けた支援

4. 研究実践

- (1)人材を育成する組織開発

①ビジョンの浸透

学校運営支援室は「正確・迅速な事務処理」を求めるためだけの共同実施ではなく、「問題発見・解決能力」を高め、「学校運営の支援」を行うための組織である。このビジョンをメンバー

全員が持ち、主体的で協働的なチームとして学校運営支援室が機能できるようにしているのが、事務共同実施協議会である。支援室のメンバーに加え、顧問校長と教育委員会指導主事と学校教育係長が参加し、それぞれの立場や視点からの助言や、連携を深めるための話し合いを行っている。問題解決に向かう学校運営支援室のモチベーションを高めている。

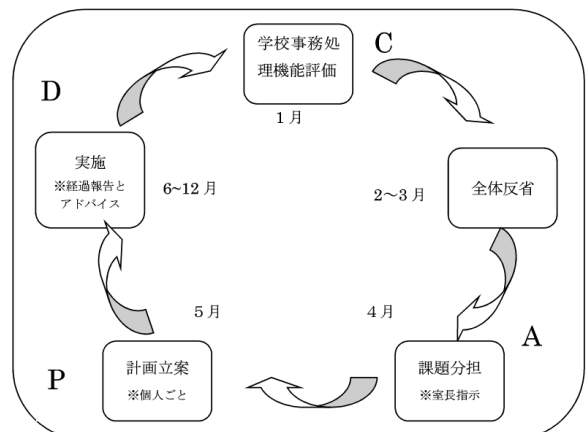
②研修

地域との連携を意識した接遇研修として、他市町村から取り寄せた電話対応や来客対応のテキスト、町職員の接遇マニュアルを活用した。「応対される側の感じ方がわかった」「不審電話対応がわかった」など、応対に自信を持つことができた。

また、町内の特別支援学校・特別支援学級に通う児童生徒及びその家族との交流事業「手をつなぐ育成会ふれあい活動」に希望参加した。支援室のブースを出し交流を行った。子ども達や保護者、教員との距離が近づき、学校での会話も増えた。

- (2)学校事務処理機能評価を使ったPDCAサイクルの確立

平成26年度より学校事務処理機能評価を町内の全教職員を対象に実施している。教員が行な



▲学校事務処理機能評価を使ったPDCAサイクル

う教務事務を含めた学校全体の事務処理が、各学校でうまく機能しているかどうかを評価してもらう。

評価を起点としたPDCAサイクルになっている。事務処理機能評価の向上や学校運営支援のための手立てとして、支援室のメンバーに担当業務を割り振る業務担当制を導入している。

業務担当制には、以下のようなねらいがある。

- ・事務改善の担当者としての「その道のプロ」の育成

- ・疑問点等を町内のメンバーが問い合わせることのできる窓口づくり

- ・何でも広く浅くできる個人の集まりではなく、共同実施組織の中で同僚性を活かし、全体でより深い取り組みができる支援体制づくり

帳簿点検や事務処理ソフト等の統一（学費SYS、備品ソフト、一括文書受付、学年会計ソフト、児童生徒名簿の活用による効率化）、支援室だより「きゃめーる」の発行に取り組んだ。担当者の資質向上により、町全体の確実な処理能力向上へつなぐことができた。

(3)多忙化解消へ向けた支援

分かりにくい事務処理については、支援室開始当初から教員に向けて、様々な支援を行ってきた。事務処理そのものの支援だけではなく、学校運営への支援の視点で、さらに踏み込んだ取組を行うことにした。

①勤務時間の見える化 【個人結果のデータ出力】

日常的に教員自らが現状を把握する環境づくりのため、平成27年度にエクセルで専用のソフトを開発した。記録するだけでなく、職員全体の平均残業時間と本人の残業時間の比較など、自己管理に役立てられるよう、個人毎の1ヶ月分の結果をグラフで印刷して、毎月示した。平成29年度には御富町内のどの学校でも出勤と退校時刻の入力率が90%以上になった。また、学校運営支援室だより

「きゃめーる」で、学校事務職員の目線で、「働きやすい職場」「健康」「時間への意識」といった、教員へ大事にしてほしい思いを伝え続けた。

②時間のマネジメント

勤務時間記録ソフトのデータを使い、年間の忙しさのリズムの見える化を図った。最も忙しい時期だけでもどうにかしたい、と以下の取組を学校事務の立場から提案した。

ア. 会計報告時期の変更

各学期末は、成績処理等で教員の事務作業が多く発生する。学校徴収金に関する規約をひも解き、会計報告書を次の学期の初めに出せるよう、校内外で調整をした。教員が比較的余裕のある長期休業中に落ち着いて会計事務ができるようになった。

イ. 学校評価集計システムによる負担軽減

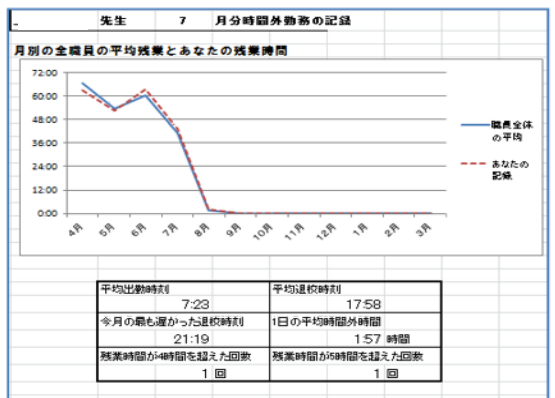
学校評価は25項目の質問が保護者と児童を合わせて全校で約1,000枚ある。1問あたり1秒かかるとして、25,000秒(417分)が集計のためにかかっていた。フリーの集計システムと、学校にあるスキャナーを使うことにより、事務職員1人で簡単に集計を終わらせることができた。また、集計に関わることで、事務職員自身が学校評価をより身近に感じられるようになった。

5. 成果と課題

○ビジョンの統一と、地域・保護者・児童生徒を意識し、メンバーの学校運営を支援する自覚と視野を広げることができた。同僚性と政策形成能力を育成する組織として確立してきた。

○勤務時間の可視化や、前年度との比較など、管理職と多忙化解消策について検証・提案する役割の一端を担うことができるようになった。

▲組織の一員として教員と協働を進め、学校の組織力を支えることは、教員の多忙化解消だけでなく、子ども達の豊かな育ちにつながる。教育課程の理解を深め、マネジメントをさらに進めたい。



▲勤務時間の見える化 【個人結果のデータ出力】 5 -



御嵩町教育委員会表彰

御嵩町教育委員会では、スポーツや学芸等の各種大会やコンクールで 優秀な成績を収めるなど、教育の推進に功績が顕著である場合、表彰を行っています。2月23日に、5名の児童生徒が表彰されました。

- ◆上野 心花さん 山崎 麻衣さん（伏見小6年）
★社交ダンスに励み、昨年岐阜県チームの一員として全国大会に出場するなど、他の模範となる活躍
- ◆金澤 朱里さん 鈴木 凱也さん 三輪奈央花さん（向陽中1年）
★岐阜県教育委員会主催「中学校学校給食選手権」にふる里御嵩をテーマにしたメニュー「鉄カルたっぷり御嵩給食」を考案し、チームワークでつくり上げ、グランプリを受賞



▲渡邊教育委員からそれぞれの表彰状が読み上げられ、手渡されました。

文化財探訪

No.40

国指定重要文化財(願興寺本堂)を みんなの力で守ろう その7

御嵩町国指定重要文化財願興寺本堂修理保存会 総決起大会を盛り上げよう!!

3月17日(土)午後2時より、中公民館にて、願興寺本堂修理保存会の総決起大会を下記のように実施します。寄付金にご協力いただける方々の多くのご参加をお願いいたします。

- 1 開会の言葉
- 2 保存会会長挨拶
- 3 町長挨拶
- 4 来賓挨拶 国会議員・県議員・町会議員
- 5 来賓紹介
- 6 講演
演題 「願興寺本堂の国重文指定に関わって」
講師 元岐阜県博物館館長 高橋宏之 氏
- 7 願興寺本堂修理について
- 8 決意表明・頑張ろうコール・写真撮影
- 9 閉会の言葉



決意表明

私たち保存会は、みただけの宝である国指定重要文化財願興寺本堂を解体修理し、後世へと守り・引き継ぐために、心を一つにして、事業主体願興寺の負担額一億円の浄財を集めさせていただき決意であります。

皆様のあたたかいご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

平成30年3月17日

国指定重要文化財願興寺本堂修理保存会一同

3月の主な行事

オアシス教室 3月
カウンセリング日

6(火),13(火)
20(火),27(火)

- 1日(木) 子どもセンター
「ぼけっと78号」発行
- 2日(金) 上小 授業参観・懇談会
伏小 6年生を送る会
- 6日(火) 上小 放課後子ども教室
中学校卒業証書授与式
- 7日(水) 上小 新入児学校体験
- 8日(木) 上小6年 薬物乱用防止講座
- 9日(金) 上小 ぼうさいかみのごう
御小 ことばの教室卒級式
- 13日(火) 御小 かがやき教室卒級式
- 15日(木) 向中 小中交流会
- 21日(水) 春分の日
- 23日(金) 小学校卒業証書授与式
- 26日(月) 修了式 離任式

※3月27日(火)～4月8日(日)

学年末・学年始め休業日

4月9日(月) 平成30年度 入学式・始業式

『優秀論文集』

『調査・研究員会 提言集』 を発行します

3月中に、教育センター発行「優秀論文集」及び「調査・研究員会 提言集」を発行します。

優秀論文集と提言集は、関係諸機関に配布すると共に、「教育センター巡回図書BOX」に収納します。

今年度の各先生方の実践・研究あるいは活動の集大成を、来年度以降の教育実践に生かしていただければ幸いです。

